

問 小規模保育事業所の増設が必要

答 入所保留児童の解消を検討する

問 令和5年4月で待機児童は73人。村は若者に選ばれる政策を行ってきたはずが、若者が移住しても子どもを預ける保育所がない。そこで、待機児童の実態と今後の待機児童解消に向けた対策を伺う。

答 令和2年度に民間の小規模保育園と公立保育所が開設され、令和3年4月には待機児童が0人となったが、令和4年度になり入所申請児童が増加し、入所保留児童（自己都合による入所保留）も増加した。本年10月に3名の職員採用を予定しているなど、今後は民



新とうかい
ささしま じろう 議員



駅西に設置されている小規模保育事業所

間事業者も含め、特に0歳児・1歳児の入所保留児童解消に向けた対策を検討する。

問 入所保留児童は、0歳児から2歳児までで54名74%を占めている。この状況を解消することが急務であり、小規模保育事業所の増設が必要である。村の考えを伺う。

答 保護者のニーズを分析した上で、官民一体となり、施設整備の必要性などあらゆる角度から入所保留児童の解消に向けた取り組みを検討する。

問 歩きたくなるまちづくりへの提案

答 庁内プロジェクトチームで検討

問 今年度から健康づくりや移動手段で「歩く」ことを推奨した歩きたくなるまちづくりが推進される。以前から「歩く」人の姿は数多く見られ、そもそも歩くことは村民の要求と見受ける。

答 ウオーカブルなまちづくりは、コンパクトで都市空間と自然環境が近接する本村の強みを生かし、歩ききっかけ、歩くことを日常化する仕掛け、歩きたくなる環境整備を展開しようとする施策。着目した点は、健康づくりやスポーツ推進計画策定に係る調査で、「現



おおな みえこ 議員



保健センターのすこやかウォーキングより

に行っている、またはこれから行いたいスポーツは？」の問いに、「ウォーキング」との回答が第1位だった点。また歩くことは「気軽に始めることができ、生活習慣病の改善や予防効果も認められている」などの点。

問 既に歩いている方々から「途中で休めるベンチや、色々なコースが楽しめるようにトイレがあれば」との声が届いている。

答 庁内プロジェクトチームで検討し、必要な整備を進める。